

浜水

あらかると

楽 シン
水 ン
群 水 ク
像 球 口

遠泳
大会
水上
大名行列
運動会

昭和 25 年(1950)=第 44 回

- ・大阪プール開場、楽水群像参加(8月1日)
- ・復活第1回日米水上競技大会に楽水群像出場。

このとき初めて楽団演奏で演技(宝塚歌劇団・高橋廉作曲、大阪市音楽団演奏、高橋清彦振り付け)

「楽水の思い出」

浜寺水練学校 主事 稲葉 功

昭和25年8月1日大阪プールが開場され戦後第1回日米水上競技大会で5万人の大観衆の前で「楽水群像」が大阪市音楽団の演奏で演技が披露されました。

四月初め高橋清彦先生より新しく作る「楽水」を手伝うようにいわれました。それから毎日メンバーは学校が終ってから社会人はお勤めが終って扇町プール(現大阪プールの前身25米プール)に

集り練習が始まりました。「楽水」のメンバーは泳ぎを合わせるのに苦労し高橋先生は振付に大変苦労をされました。

「楽水」の型が出来上り、そこで作曲を宝塚歌劇団の高橋廉先生におねがいしました。その時振付に関しては申し分のない出来だとおほめを頂きました。

7月に入り水練学校の授業が始まりましたが毎日扇町プール通いが続きました。そして8月1日の記念すべき日を迎えることとなるのです。



昭和 14 年(1939)=第 34 回

- ・神宮大会に楽水群像出場

昭和 18 年(1943)=第 38 回

- ・神宮大会出場(日本泳法、楽水群像)

昭和 28 年(1953)=第 47 回

- ・日米豪比対抗競技大会に楽水群像出場

昭和 29 年(1954)=第 48 回

- ・日米丁対抗水上競技大会に楽水群像出場
(大阪プール)

昭和 30 年(1955)=第 49 回

- ・復活第 2 回日米対抗大阪大会に楽水群像出場。

昭和 33 年(1958)=第 52 回

- ・日豪国際水上に楽水群像出場(8 月 22・23 日、大阪プール)

昭和 34 年(1959)=第 53 回

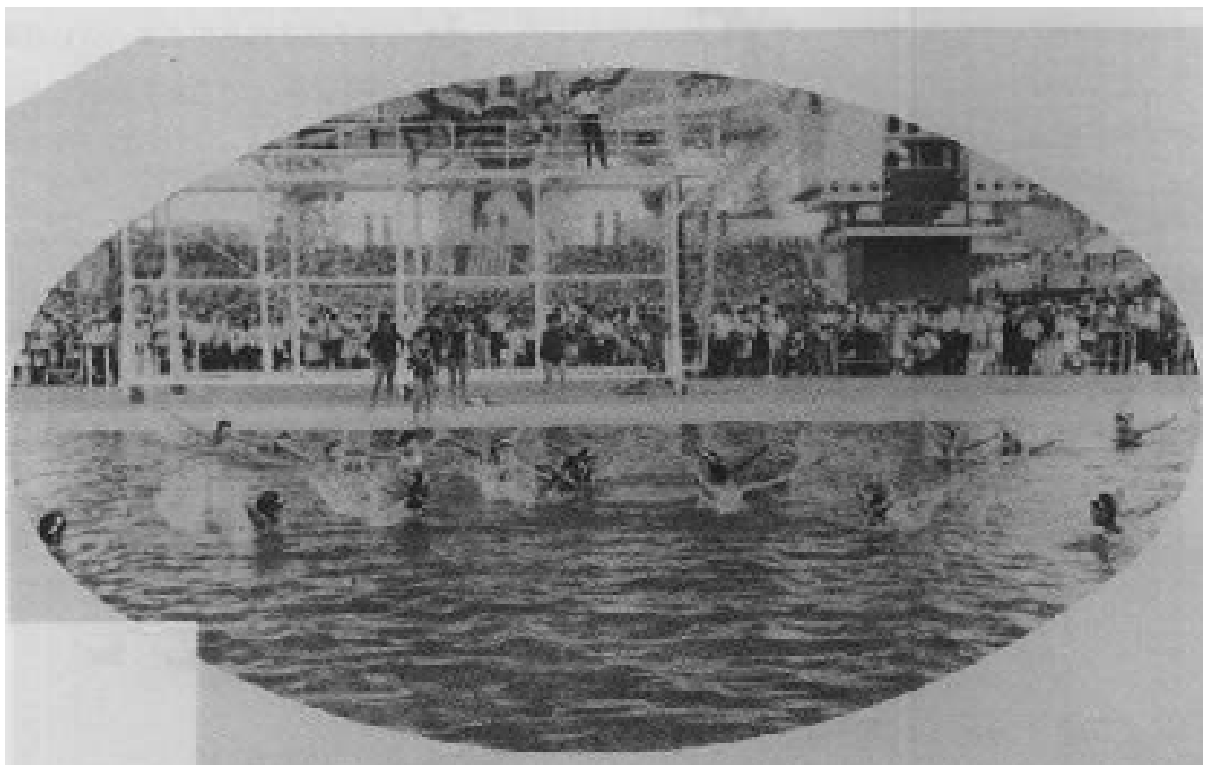
- ・第 3 回日米対抗大阪大会に大名行列、楽水群像、(8 月 25・26 日、大阪プール)

昭和 44 年(1969)=第 63 回

- ・万国博市民の夕べに楽水群像が参加(8 月 5 日、大阪プール)

昭和 45 年(1970)=第 64 回

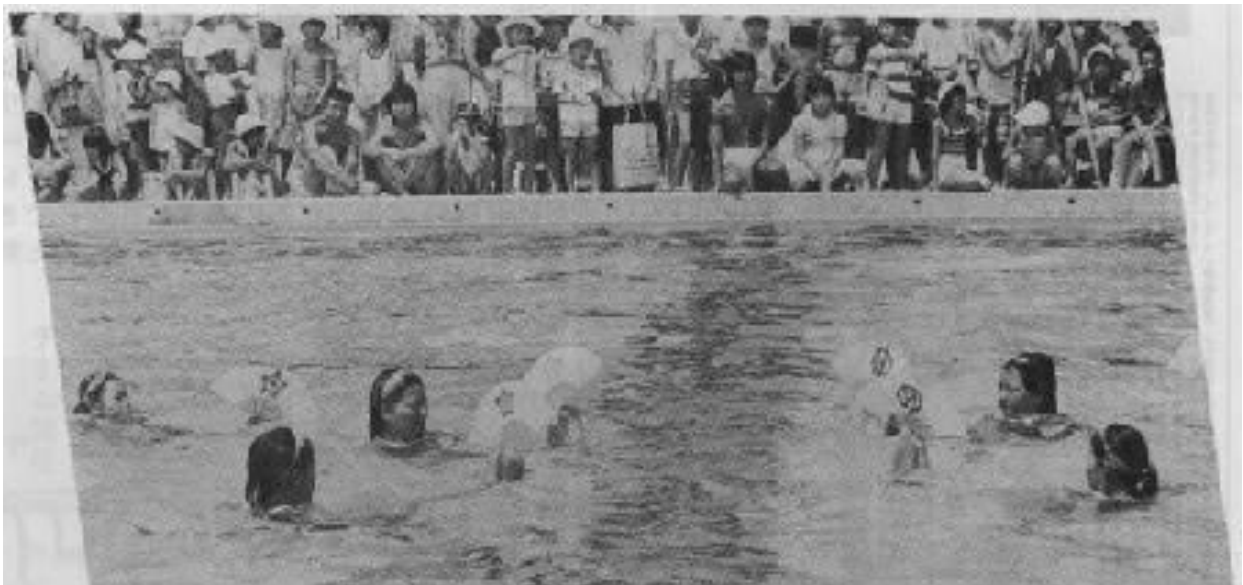
- ・万国博のシンクロ国際招待大会開会式にシンクロ、沖渡り大名行列、楽水群像が出場。
- ・シンクロ国際大阪大会、堺大会にシンクロ部のほか、沖渡り大名行列、日本泳法が出場(8 月 8 日、大阪プール> 同 9 日、金岡プール)



大阪万国博のエキシビションでの「楽水群像」(45年)



昭和30年代、大阪プールでのエキシビジョンに出演した「楽水群像」



浜水の水上演習会での「楽水群像」(54年)

(2) シンクロ部

(シンクロナイズドスイミング)



シンクロ水中演技(54年)



昭和59年8月10日付毎日新聞夕刊

シンクロ導入 ルール翻訳に苦勞

シンクロはアメリカのキャサリン・カーティス女史が考案、1934年に水中バレエ団を結成、シカゴで開かれた世界貿易博覧会で初公開したのが始まりといわれる。このシンクロにわが国で初めて目を向けたのは高橋清彦師範だった。

浜水では大正14年に女子部長の松本敏雄が、日本の古式泳法とクロールなどを組み合わせた「楽水群像」を考案、笛を合図に泳ぎを変化させていた

が昭和25年、大阪で開かれた日米水上競技大会への出場を前に、高橋師範

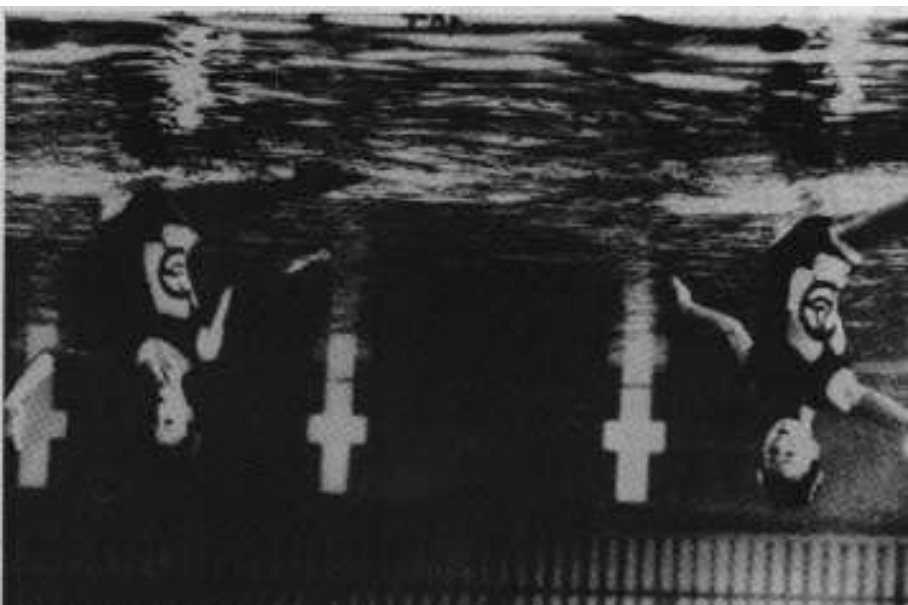


は音楽に合わせて演技することを思いついた。そして、参考にするためアメリカから取り寄せた資料「シンクロ」が競技として行われていることを知った。いわば日本シンクロ界のスタートは「楽水群像」の音楽化の副産物だったのである。本場のシンクロを初めて見たのは昭和29年7月、東京・神宮プールで行われた米国シンクロチームの演技だった。米軍慰問のため来日したついでに公開したわけだが、“水に踊る美しい姿体”(当時の新聞見出し)に満員の観衆はうっとり。浜水の選手たちもその美しさに見とれた。「ルールブック」を頼りに自分たちで研究してきたシンクロと違いはあったものの「これならできる」という思いも強く、以後の練習に一段と熱が入るようになる。



大阪万国博での演技(45年)

デュエット2位の浜寺水練学校
藤原真子、真子姉妹の水中演技

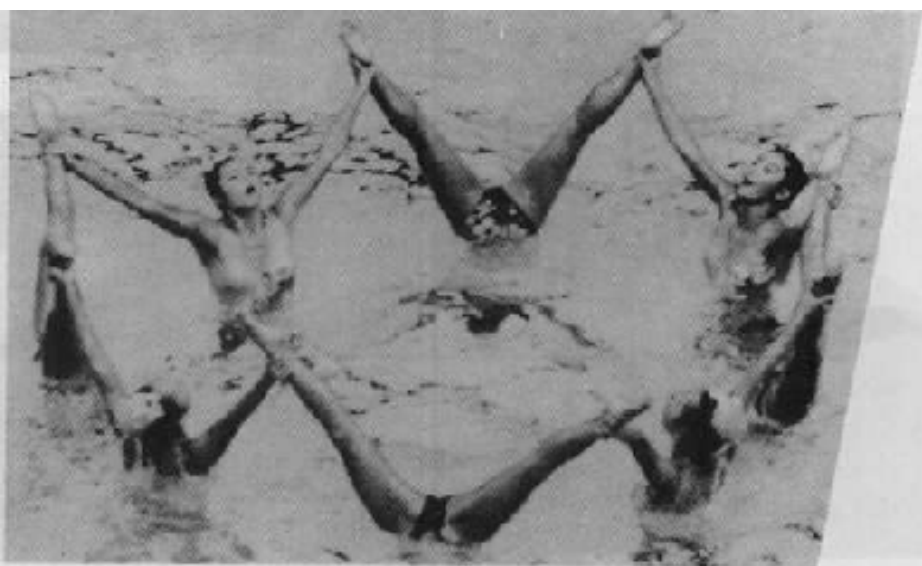


第3回世界選手権大会で銀メダルを
獲得した藤原真子と真子さん



第3回世界選手権

53年(1978)
西ドイツ・ベルリン

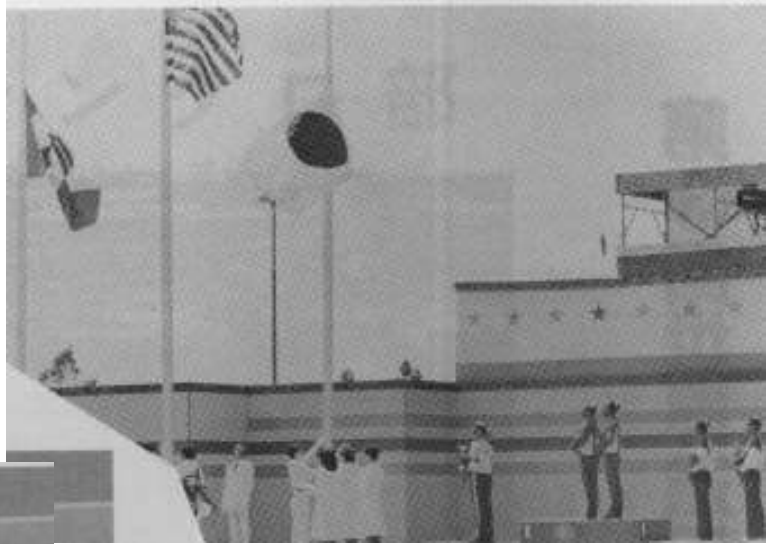


チーム演技

ロス五輪

ロスアンゼルス・オリンピック

銅メダル！

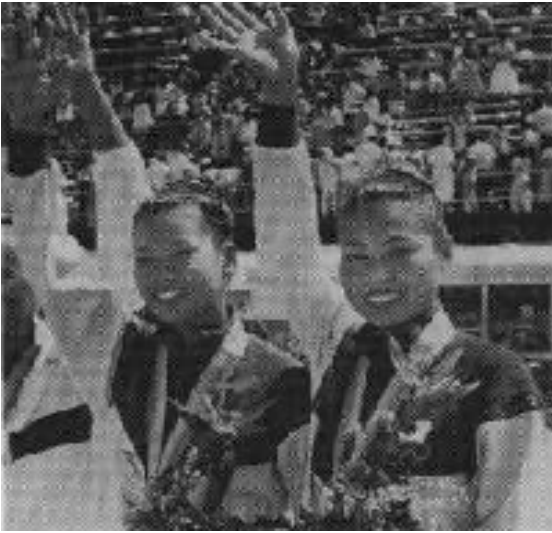


昭和59年(1984)8月、“HAMADERA”の名は世界を駆け巡った。ロスアンゼルス・オリンピックで浜水パワーが爆発、シンクロナイズド競技においてソロ、デュエットで銅メダルを獲得したからである。元好三和子、木村さえ子両選手の健闘と2人を支えてきた井村雅代コーチ、藤原一乃選手らのチームワークは、34年間の浜水シンクロナイズドの歴史を代表し、自邸にプールを建設した高橋師範をはじめシンクロナイズド関係者の苦勞の結晶であった。浜水の歴史にまた一つの大きな記録が書き加えられた。





銅メダルを獲得した元吉美和子(右)木村さえ子(59年)



後輩たちにメダルを披露



メダルを胸に帰国(大阪湾で)

“ 栄光の戦績 ”

昭和29年(1954)=第48回

- ・奈良良国体でシンクロナイズ・スイミングを日本初公開(9月21日・天理プール)
- ・アメリカ・シンクロチーム来日(7月28日、神宮プール)

昭和30年(1955)=第49回

- ・日米大会の四国、九州、天理会場にシンクロ、染水群像参加

昭和31年(1956)=第50回

- ・第1回日米シンクロ競技大会兼日本選手権大会
- ・国体夏季大会にシンクロ出場(9月、甲子園プール)

昭和32年(1957)=第51回

- ・シンクロナイズ・スイミング部創設
- ・第1回日本シンクロ選手権出場、チーム2位、デュエット3位(8月14日、東京・目白プール)

昭和33年(1958)=第52回

- ・第3回アジア大会にシンクロ部出場(5月28日~31日、東京)
- ・第2回日米シンクロ、競技大会出場(8月12日、神宮プール)
- ・日豪国際水上にシンクロ、染水群像出場(8月22・23日、大阪プール)

昭和34年(1959)=第53回

- ・第3回日本シンクロ選手権出場、チーム優勝、デュエット優勝、ソロ2位(8月12日、東京)
- ・第3回日米対抗大阪大会に大名行列、染水群像、シンクロ出場(8月25・26日、大阪プール)
- ・高橋菊彦シンクロ育成の功勞で表彰

昭和35年(1960)=第54回

- ・第3回日米対抗シンクロ出場、チーム2位(8月18日、東京)

昭和36年(1961)=第55回

- ・第1回関西シンクロ選手権で全種目独占優勝(大阪プール)

昭和37年(1962)=第56回

- ・第2回関西シンクロ選手権で全種目独占優勝(6月、大阪プール)
- ・アラブ連合国際水上競技大会にシンクロ部出場、全種目独占優勝(7月1日-5日)

昭和39年(1964)=第58回

- ・日米親善シンクロ大会出場(10月21・22日、滋賀県草津室内プール)

昭和40年(1965)=第59回

- ・第9回日本シンクロ選手権大会で全種目技勝(8月26・27日、東京目白プール)10・11回大会でも独占優勝し、3連連覇を果たす

昭和41年(1966)=第60回

- ・全米シンクロ選手権のためシンクロチーム渡米(6月6日~8月10日、サンクラメント)

昭和43年(1968)=第62回

- ・高橋清彦氏が常務副に就任
- ・第12回日本シンクロ選手権で全米代表サンタクラチームが優勝、浜水はチーム、ソロで2位(8月15・16日、大阪プール)
- ・シンクロ日米交流大阪大会に参加(8月16日大阪プール同22日、金岡プール)

昭和45年(1970)=第64回

- ・万国博のシンクロ国際招待大会開会式にシンクロ、沖渡り大名行列、染水群像が出演、シンクロ部がアメリカ、カナダ、西ドイツチームに混じって出場(8月6~13日、万国博人工池)
- ・シンクロ国際大阪大会、堺大会にシンクロ部のほか、沖渡り大名行列、日本泳法が出演(8月8日、大阪プール 同9日、金岡プール)

昭和47年(1972)=第66回

- ・シンクロ部がヨーロッパ遠征し、ミュンヘンなどで国際競技会に出場

昭和48年(1973)=第67回

- ・第1回世界選手権水泳競技大会でシンクロの瀬原昌子、育子姉妹ミデュエット3位を獲得、チーム(ナショナル)も3位に入賞(9月、ユーゴスラビア)

昭和49年(1974)=第68回

- ・第1回パンパシフィック大会にシンクロチーム出場、デュエット、チームとも銅メダル獲得(9月、アメリカ)

昭和51年(1976)=第70回

- ・第2回パンパシフィック大会が名古屋で開かれ、シンクロデュエット、チーム3位(9月)

昭和52年(1977)=第71回

- ・第3回パンパシフィック大会でシンクロデュエット、チーム3位(8月、メキシコ)

昭和53年(1978)=第72回

- ・第3回世界選手権のシンクロデュエットで藤原敏夫が銀メダルを獲得、チーム(ナショナル)も2位(8月、西ベルリン)

昭和54年(1979)=第73回

- ・第1回FINA ワールドカップが東京で開かれ、シンクロチーム(ナショナル)2位(8月)
- ・第4回パンパシフィック大会にシンクロ出場、チーム演技でわずか0.12点の差で金のがす(11月、ニュージーランド)

昭和55年(1980)=第74回

- ・A.U.のシンクロチームが来日、浜水との交流を深める。

昭和56年(1981)=第75回

- ・第25回日本選手権でシンクロがソロ、デュエット、チームを制覇(8月、静岡)

昭和57年(1982)=第76回

- ・第4回マジヨルカ選手権でシンクロチーム3位(6月、スペイン)
- ・第4回世界選手権でシンクロチーム、3種目3位(8月、エクアドル)
- ・島根国体のシンクロデュエットで優勝(9月)
- ・大阪水泳協会からシンクロ、日本泳法、全国選泳の選手25人が表彰を受ける。

昭和58年(1983)=第77回

- ・第2回アメリカンカップでシンクロチームが3種目3位を獲得(8月、アメリカ・ロサンゼルス)

昭和59年(1984)=第78回

- ・ロサンゼルス・オリンピックのシンクロ競技で、ソロ(元好三和子)、デュエット(元好木村)3位獲得(8月)

昭和60年(1985)=第79回

- ・第2回FINA ワールドカップでシンクロチーム、3種目3位(8月、アメリカ)
- ・第29回日本選手権でシンクロソロ、チーム優勝(8月、富山)

平成元年(1989)=第83回

- 友松悦子 萩野希代子選手国体に大阪代表として出場(第3位)

(3)水球 その他



水球部

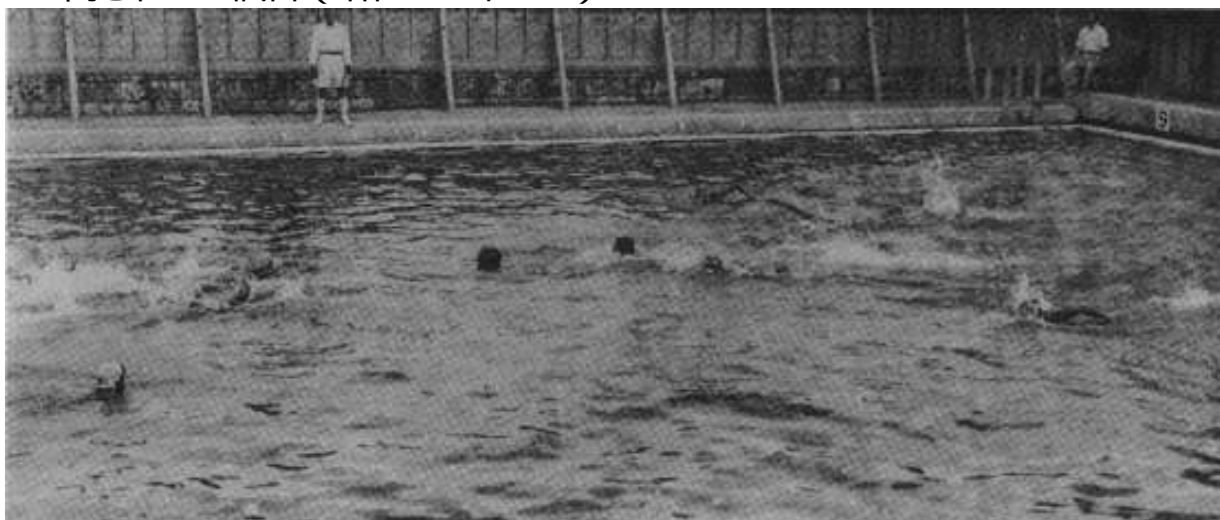
戦争)に遡ることができる。

昭和10年(1935)の浜水第30回目の開校時、日本最初の女子ウォーターポロチームとして、神戸外人クラブと対戦したのを皮切りに、昭和24年には同じく女子ポロチームが、同志社と対戦している。その後一時中断の後、昭和52年には松室一男大阪水泳協会水球委員長を指導者に迎え、再生水球部が復活し、昭和56年には浜水単独チームとして滋賀国体で活躍した。

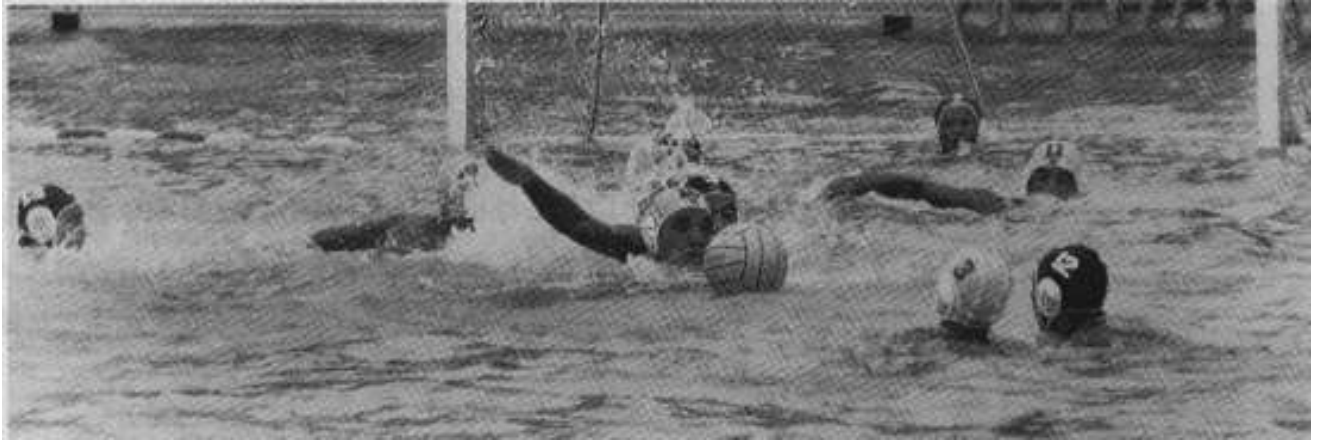


昭和24年ごろのメンバー

同志社での試合(昭和24年ごろ)



日本一の 目指して クラブチームを



昭和52年に創設された水球部

第一回ジュニア
オリンピック
中学の部
3位
のメンバー
(53年)



56年
滋賀国体
で
大活躍

昭和56年(1981) = 第75回

堂々の入場行進



選手にアドバイスする浜水水球部津田委員長
(右手前 後ろ向き) = 58年・第6回ジュニア
オリンピックで =

水球部戦績一覧

(ジュニアオリンピックはリーグ戦、他はトーナメント戦)

年 度	成 績				
1977(昭和52)年	〔兵庫選手権〕浜水 15-2 宝塚高D 浜水 1-30 岡山しづき会〔関西選手権〕浜水(反則勝ち)5-5 福井科学技術学校D 浜水 2-15 欧友会				
1978(昭和53)年	〔兵庫選手権〕浜水 15-0 宝塚高D 浜水 3-19 立命館大〔関西西選手権〕浜水 9-4 育英高D 浜水 6-4 武庫工業D 浜水 1-15 海上自衛隊〔第一回全国ジュニアオリンピック〕中学の部=3位 浜水 12-2 成女烏山スイミングD 浜水 1-9 明大中野中D 浜水 6-2 武蔵中D 浜水(反則勝ち)2-2 城北中				
1979(昭和54)年	〔第2回全国ジュニアオリンピック〕中学の部=3位 浜水 4-3 武蔵中D 浜水 6-2 育水会D 浜水 2-5 明大中野中D 浜水 10-0 スポーツハイツ学童の部=3位 浜水 6-0 スポーツハイツD 浜水(反則負け)3-3 慶応スイミングD 浜水 4-2 育水会〔全日本選手権〕浜水 0-18 法泳会				
1980(昭和55)年	〔第3回全国ジュニアオリンピック〕学童の部=優勝 浜水 5-0 育水会D 浜水 7-0 与野水球クラブD 浜水 13-0 慶応スイミングD 浜水 7-5 群馬スイミング〔全日本選手権〕浜水 3-8 全三菱クラブ				
1981(昭和56)年	〔第4回全国ジュニアオリンピック〕中学の部=3位 浜水 6-0 修道中D 浜水 7-1 江津ジュニアD 浜水 3-7 与野水球クラブD 浜水 1-10 明大中野中				
1982(昭和57)年	〔関西選手権〕浜水 4-8 名古屋学院高〔第5回全国ジュニアオリンピック〕中学の部 浜水 2-8 武蔵中D 浜水 8-4 修道中D 浜水 26-0 竜城スイミングD 学童の部 浜水 1-9 群馬スイミングAD 浜水 0-6 藤村スイミングD 浜水 2-4 中央プラザスイミング				
1983(昭和58)年	〔関西選手権〕浜水 8-4 武義商D 浜水 5-8 四日市中央高(第6回全国ジュニアオリンピック) 中学の部=4位 浜水 4-4 名古屋学院D 浜水(反則勝ち)5-5 明大中野中D 浜水 2-4 修道中D 浜水 8-2 城北中D 浜水 5-11 群馬スイミングD 学童の部 浜水 1-3 江津スイミングD 浜水 3-2 高岡スイミングB				
1984(昭和59)年	〔兵庫選手権〕=優勝 浜水 8-4 赤塚山高D 浜水 10-8 市立伊丹高D 浜水 15-8 武庫工業OB 浜水 13-5 阪急スイミング〔関西選手権〕浜水 10-0 大垣東高 浜水 8-4 四日市南高D 浜水 4-14 長柄商工〔第7回全国ジュニアオリンピック〕中学の部 浜水 7-1 金沢兼六中D 浜水 11-0 ピーブルスイミングD 浜水 0-4 修道中D 浜水 4-6 城北中D 学童の部 浜水 2-10 群馬スイミングD 浜水 3-5 川口スイミング〔全日本選手権〕浜水 2-15 慶応大				
1985(昭和60)年	〔兵庫選手権〕=準優勝 浜水(反則勝ち)8-8 伊丹クラブD 浜水 12-3 猪名川高D 浜水 9-10 尼崎北高〔関西選手権〕浜水 4-8 京都大〔第8回全国ジュニアオリンピック〕中学の部=5位 浜水 9-1 竜城スイミングD 浜水 2-0 NAS スイミングD 浜水 9-4 阪急スイミングD 浜水 3-14 城北中 浜水 6-10 高槻スイミングD 浜水 11-4 修道中D 学童の部=4位 浜水 10-5 カワサキスイミングD 浜水 15-0 ピーブル明石スイミングD 浜水 9-2 川口スイミングD 浜水 1-6 藤村スイミングD 浜水 1-4 与野水球クラブD 女子の部=5位 浜水 2-2 藤村スイミングD 浜水 8-1 魚津スイミングD 浜水 3-5 高槻スイミング〔全日本選手権〕浜水 8-9 稲泳会B				
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;"> ジュニアオリンピック ベストセブン </td> <td style="width: 50%; text-align: center;"> 国 体 出 場 選 手 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 〔中学の部〕(第1回)大杉茂生 (第2回)大橋秀行 (第6回)白浜健太(第8回)水谷真大 〔学童の部〕(第2回)伊瀬博夫 元好進 (第3回)元好進 白浜健太 沢田之孝 村由和彦 西出康人 (第8回)山田隆行 </td> <td style="vertical-align: top;"> 〔宮崎・昭和54年〕大杉茂生 〔滋賀・昭和56年〕大杉茂生 鶴谷和昭 白浜慎一 大仲信幸 尾崎敦 伊瀬良一 丹生敬人 〔島根・昭和57年〕丹生敬人 </td> </tr> </table>		ジュニアオリンピック ベストセブン	国 体 出 場 選 手	〔中学の部〕(第1回)大杉茂生 (第2回)大橋秀行 (第6回)白浜健太(第8回)水谷真大 〔学童の部〕(第2回)伊瀬博夫 元好進 (第3回)元好進 白浜健太 沢田之孝 村由和彦 西出康人 (第8回)山田隆行	〔宮崎・昭和54年〕大杉茂生 〔滋賀・昭和56年〕大杉茂生 鶴谷和昭 白浜慎一 大仲信幸 尾崎敦 伊瀬良一 丹生敬人 〔島根・昭和57年〕丹生敬人
ジュニアオリンピック ベストセブン	国 体 出 場 選 手				
〔中学の部〕(第1回)大杉茂生 (第2回)大橋秀行 (第6回)白浜健太(第8回)水谷真大 〔学童の部〕(第2回)伊瀬博夫 元好進 (第3回)元好進 白浜健太 沢田之孝 村由和彦 西出康人 (第8回)山田隆行	〔宮崎・昭和54年〕大杉茂生 〔滋賀・昭和56年〕大杉茂生 鶴谷和昭 白浜慎一 大仲信幸 尾崎敦 伊瀬良一 丹生敬人 〔島根・昭和57年〕丹生敬人				

「大名行列」登場

楽水群像と並ぶ浜水名物「大名行列」は昭和6年(1931)に誕生した。「シタニー、シタニ」の勇ましい掛け声を発しながら、のぼりを先頭に毛槍、長持ちと続く行列は、「浜寺水練之守」が乗り込む大名駕籠を中心に長さ約60メートル。陣笠、手甲、脚綬に身を固めた供の者が膝を高く上げる歩き方で行進する。笛の合図でピタリと行列が止まりドンドンドンと打ちならされる太鼓に合わせて水中に進む。隊列を整えると「エイツ、ホー」と掛け声が変わり平泳の群泳に移る。次の合図で行列が停止すると「浜寺水練之守」の御前模範泳法の水書、拔手合わせ、伝馬、御前泳、静拔手、蟹飛びなどが次々と家来により披露される。

演技の終了を見届けた殿が扇を高く振り上げ「アップレ、アップレ、余は満足じゃ」との言葉を発すると観客から朗せずして大拍手。そしてまた行列は進行する。

以上のような筋書きの大名行列は創立25周年記念大運動会に余興として登場し、以来実に55年にわたって受け継がれている。シンクロ、楽水と異なり大名行列はあくまでも余興であるが、隊列をくずさずに群泳する遠泳の技術と、かなりの重さのものを引くための泳力とが要求されるため、駕籠など道具類のかつぎ手には教手以上の屈強な教員が任命されるほどである。



昭和6年(1931)=第25回

・大名行列誕生

昭和34年(1959)=第53回

・全国勤労者大会に大名行列出場(8月20日、大阪プール)

昭和35年(1960)=第54回

・オリンピックの夕べに大名行列出場(7月31日、大阪プール)

昭和45年(1970)=第64回

・万国博のシンクロ国際招待大会開会式にシンクロ、沖渡り大名行列、楽水群像が出場

・シンクロ国際大阪大会、堺大会、堺大会にシンクロ部のほか、沖渡り大名行列、日本泳法が出場



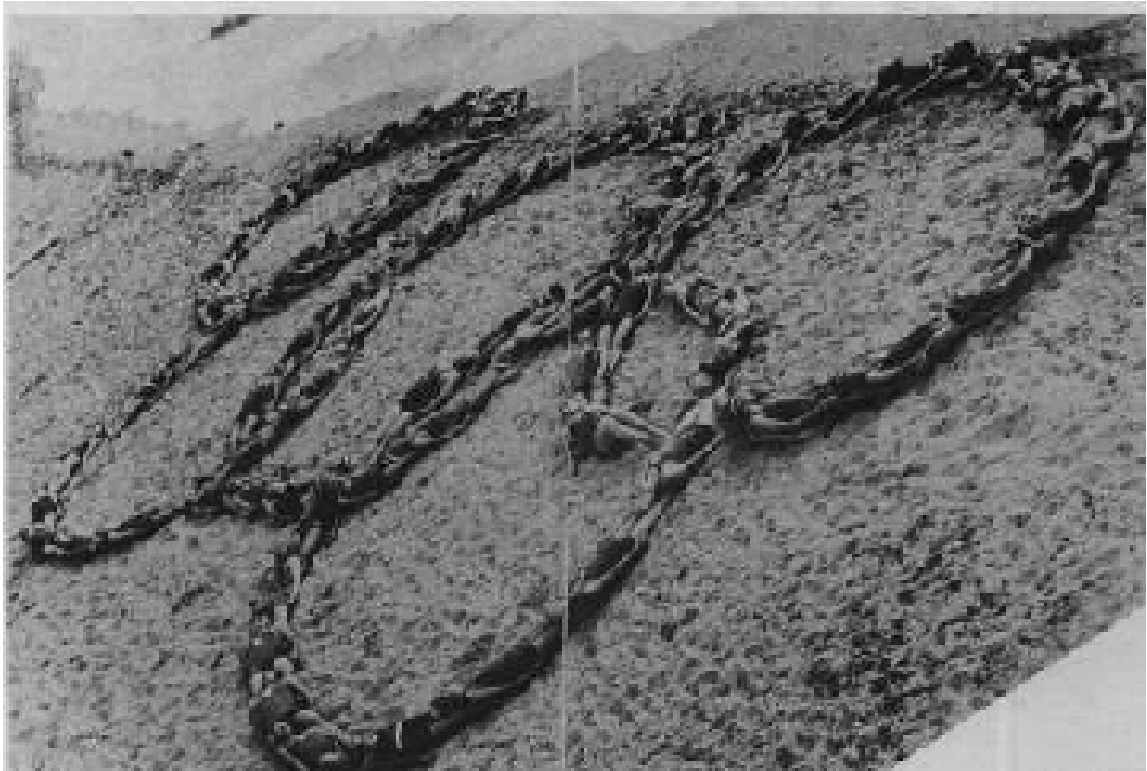
昭和10年頃の大名行列



水上大運動会



人間五輪



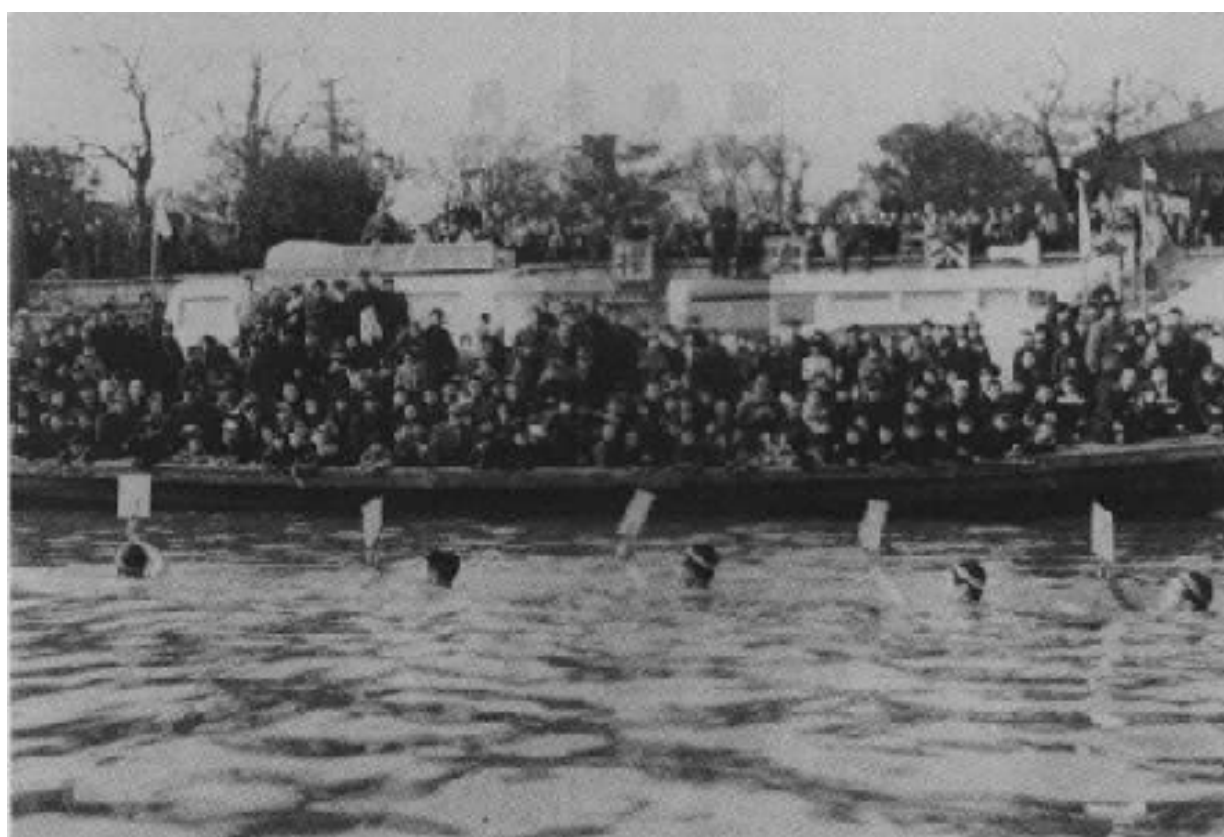
浜水名物の一つである大運動会は昭和初期に始まった。当時は浜寺海岸での運動会でありプールでの運動会と一味も二味もちがった内容の趣のある運動会であった。



平成3年夏の水上運動会



海の時代の遠泳



大阪・桜宮で行われた「寒中水泳大会」で水書を披露する浜水チーム(30年)

【参 考 文 献】

南紀徳川史卷之6 2
遊 泳 術 教 科 書
能 島 流 遊 泳 術
野 島 流 遊 泳 術
日 本 水 泳 史
能 島 流 遊 泳 術
図 説 日 本 泳 法

合 武 三 島 流 船 戦 要 法
村 上 水 軍 文 書 調 査 書
能 島 水 軍 史

中尾 保 著	大正 1 2 年刊
多田 一郎 著	明治 3 8 年
多田 一郎 著	昭和 4 年
石川 芳雄 著	昭和 3 5 年
巽 忠蔵 著	昭和 4 5 年
白山 源三郎著	昭和 5 0 年
森重 都由 原編著	昭和 5 4 年編
伊井 春樹 訳	
宮窪町教育委員会	昭和 6 1 年
宮窪町教育委員会	平成 3 年

編 集 委 員

委員長	濱 田 奈良夫
委員	稲 葉 功
〃	伊佐美 璋 子
〃	細 田 勝 正
〃	木 村 益 紀
〃	安 田 勝 彦
〃	見 附 博 幸
〃	湯 浅 教 雄
〃	渡 邊 啓 道

編集後記

- この小冊子を一読して頂いたご感想はどうであろうか?
単なる歴史書ではないか・・・ 流派としての系統性がないのでは・・・ 何を言おうとしているのかわからない。 曰く・・・ その通りだと思う。
- 今回能島流の発表を引受けてから、準備・資料集め・編集等の期間が正味ほぼ半年余り位しかなかった。(これは体のいい言い訳か?)
- 前回の能島流の発表時(昭和57年3月・第31回)以来、各流・各派の発表資料が年毎に精緻さが加わり、かつ又内容等においても各流派のご努力により素晴らしいものになってきている。
- 我、能島流についてはその沿革にはなほだ不鮮明なところが多いことも周知の事実である。
- しかし、幸い不十分とはいえ、今回の発表を契機にして資料集めのノウハウを会得したことは一つの少なからぬ財産になるのではないかと自負するところである。
- 願わくば、次回の発表を期して、泳法起源の研究・流名の確定・泳法技術の研鑽讃等に鋭意研究努力し、能島流の継承発展に期したいと願う所存である。
- 最後に、本書の編集並びに刊行にあたりご協力くださった関係各位ならびに諸先生方に対し、深甚なる感謝の意を表するとともに心より御礼申し上げます。

第41回 日本泳法研究資料「能島流」

平成4年3月21日

- ・ 編集 能島流浜寺水練学校編集委員会
- ・ 発行者 能島流浜寺水練学校 師範 濱田奈良夫
- ・ 発行所 〒543 大阪市天王寺区上汐4-5-20
浜寺水練学校
- ・ 印刷 富士紙工株式会社
〒534 大阪市都島区東野田町1-2-1
TEL (06) 3 5 8-5 2 81(代)
- ・ 表紙題字：宗家 濱田奈良夫師範書